

「幼稚園・認定こども園関係者と県民文化部長との意見交換会」 概要

1 日時 令和4年8月1日(月) 16時～17時5分

2 場所 長野県庁特別会議室

3 出席者

【幼稚園・認定こども園】

上田女子短期大学附属幼稚園 園長 新增 由香

長野あけぼの・古牧あけぼの幼稚園 園長 宮入 静

認定こども園須坂双葉幼稚園 園長 垂澤 優樹

【長野県】

県民文化部長 山田 明子

県民文化部次長兼参事 池上 安雄

私学振興課長 丸山 俊樹

(同席) 信州幼児教育支援センター、こども・家庭課

4 意見交換テーマ

○幼児教育の質の向上(幼児教育支援センターとの関わりや期待)

○特別な支援を必要とする園児や地域の子育て支援への対応

○保育との連携、対応

5 意見交換概要

○自己紹介

○部長挨拶

○意見交換

(出席者)

主に3点の課題を挙げさせていただく。

①特別な支援を要する園児への対応について

当園では、毎月巡回相談の日を設けて、コーディネーター、心理士の先生に来園いただき、園での支援方法や家庭での支援を園、家庭、専門員の3者で共有する場を設けている。

また、園児への細やかな支援を実施するためには、補助教員が必要だと考えているので各クラスに補助教員を配置している。

県の補助金申請には、保護者の同意が必要だが、同意を得られずに、加配が必要な園児もいる。同意書が必要というところにやりにくさを感じているので、見直しをお願いしたい。

発達障がいへの疑いがあり、受診を希望している場合でも、発達外来が半年待ちという状況となっており、なかなか先に進めないということもあるので、発達検査等の支援体

制の強化をお願いしたい。

②教員不足への対応

SNS等の普及により、教育・保育に関する様々な情報が出回って、処遇の悪さや大変さなどマイナスイメージが独り歩きしてしまっていて、採用に苦慮している。

働き方改革も取り組んでいるが、幼児教育に関する仕事の社会的地位を築いていくためには、自治体の力も必要だと感じる。

(出席者)

集団生活をする楽しさの中で、自分から意欲をもって学んでいくことを大切にし、社会に出た時に必要となるスキル(返事、姿勢など)を身に付けてもらうように保育を実践している。この保育を実践する教員は、短大や専門学校を卒業して、すぐに「先生」と呼ばれる存在になるが、教職員がまず基本的な社会人スキルを身に付けていかなければならない部分で、園内研修にも力を入れている。

子育て支援については、保護者も様々なところから情報を入手してくるので、正しい子育てに関する情報を伝えていきたいと考えている。また、些細なことでも相談できる育児相談日を月に数回設けている。その中で、支援が必要な園児もいるので、必要に応じて施設等と連携しながら進めている。

支援が必要な園児が年々増えているが、補助金の対象とならない園児もいる。

また、少子化と待機児童による保育園の増加で、幼稚園として経営面に不安がある。結婚に関する価値観や子供を育てることに希望を持てる社会になってほしいと思っている。

(出席者)

愛知県の幼稚園と意見交換する機会があり、園活動で「山登り」をしていることを話したところ、驚かれた。愛知県では、一大イベントでないと山登りなどできないとのことで、長野県の特徴を再発見する機会となった。

幼児教育の質の向上の部分で、処遇改善加算Ⅱの要件で研修が必修となるので、幼児教育支援センターには、教員が学べる場を多く設定してほしい。

幼小の接続については、公立保育園と公立小学校の結びつきが強く、小規模園だと入り込む余地が少なく、連携はできても接続がうまくいかず、子どもの育ちの共有に至らない部分がある。幼児教育支援センターにその辺りの仲介役を担っていただけるとありがたい。

また、コロナ禍により対面での研修が難しい中、各園への講師派遣など、園の実情に応じた活用ができる機会が増えてくるとありがたい。

最後に、ジェンダーレス、異年齢の活動が当たり前な幼稚園として、統廃合が進む小学校以上についても新しい教育の在り方として、何か協力できるのではないかと。また、マスクの着用の弊害をもっと発信してほしい。

(山田県民文化部長)

意見交換の前に、今いただいたご意見について、答えられる部分をそれぞれ担当課から回答させていただく。

(信州幼児教育支援センター 鈴木指導主事)

処遇改善加算の研修の充実については、R4からキャリアステージに応じた研修を実施しており、保育士等キャリアアップの対象として、5つのステージを設けている。園小接続の研修もキャリアアップの対象とさせていただいているので、今後も園の先生方のキャリアアップのための研修の充実を図っていきたいと考えている。

また、園小の接続を幼児教育支援センターが担うということは難しいが、事例発表等では、公立のみならず私立も含めた先駆的な取組があるので、行政等にも発信しながら推進できればと考えている。

(丸山私学振興課長)

特別な支援を要する園児への補助制度について、障がいの区分を客観的に判断するため、補助金の交付にあたっては、診断書等の提出をお願いしているところ。また、適切な支援を実施していくためには、保護者の理解や支援が必要なところから、保護者の同意を求めているところであり、ご理解をお願いしたい。

一方で、補助金事務にあたり、診断がない園児の増加や園の事務負担が大きいという御意見もあるので、機会を捉えて国にも伝えていきたいと考えている。

(山田県民文化部長)

人材確保について、先生方が誇りを持って働くためには、どんなことが必要かもう少し教えてほしい。

(出席者)

幼稚園教諭は、「先生」という職業で一番給与が低い。当園の教員間の情報共有でも、「こんなに大変で、素晴らしい職業なのに、給与が低いということは、社会的評価が低いのでは」という意見もあり、私立ではあるが公立並みの水準にしたい。

幼稚園教員は短大や専門学校卒が多いが、最近は女性も4大卒が当たり前になってきている中、保護者から求められるものが多くなってきていて、難しくなっている部分もある。

何か社会的地位を向上できる方法がないか日々感じている。

(出席者)

昔は募集しなくても子供が勝手に入ってくる時代だった。今は自分達の園を選んでもらう努力をしないといけない。そういう意味で、先生たちも言葉使いや態度など保護者から信頼される園づくりをしていかないといけないと感じている。

そういった先生たちの確保・モチベーションアップのためにも、幼児教育にかかわる先

生たちの処遇改善を考えていってほしい。

(出席者)

園児の募集も大変だが、教職員の募集もかなり大変。若い先生は、ネット等の情報を見て、就職活動をしていると思うが、都会の園の方が、待遇が良く、都会の園に行ってしまうたり、県外の養成校を卒業して、そのままその地域で就職してしまったりしているのではないかと。処遇改善も必要だが、もっと信州ならではの保育や働く魅力を伝えていかなければいけない。

(山田県民文化部長)

もう一つ特別な支援を要する園児について、支援に対する体制等何か御意見はあるか。

(出席者)

やはり人手不足感がある。多動傾向のある園児については、付きっきりになることもあるので、状況に応じてそれぞれの先生が連携して対応している。4月から補助員も募集しているが1件も問い合わせがない。

(出席者)

発達の気になる園児がいた場合は、市の相談機関に申請するが、対象園児が多く相談を受けるまでに何か月も時間がかかる。県でも何か相談窓口がないか。

(山田県民文化部長)

健康福祉部とも共有しながら、その辺ももう少し考えていきたい。

ここ最近、また感染が拡大しているところだが、各園で困っていることなどあれば教えていただきたい。

(出席者)

コロナの消耗品購入に関して補助があるが、限度額を使い切っている。第7波により、抗原検査キットが必要になってきているので、昨年のような支援があればありがたい。

(出席者)

濃厚接触者になる条件は、マスクを外して15分以上対面で話をする事。対面となると、マスクを外せない。県からも密を避けるようにと通知が来るが、園活動は密を避けることはできない。それであれば、マスクを着けて対面で遊ぶほうが大事なのではないかと考えて、屋外以外の園活動ではマスクを着けて活動している。

陽性者が出ると、保健所から活動の様子を細かく聞かれて濃厚接触者を特定しているが、

そうなるかと保護者から園での対応はどうなっているのかと問い合わせもあり、マスクやパーテーションなどで、接触者を増やさない対策となっている。

(出席者)

コロナの対応について、他の園の対応も気になるが、他の園の情報が入ってこない。

保護者によっては、緩い対応でいいと言っている保護者もいれば、神経質な保護者もいるので、どうしても安全面を考えてマスクをしっかりとするという対応になってしまう。

(丸山私学振興課長)

集団感染対策として、何か困っていることや負担に感じていることはあるか。

(出席者)

長野市では、保育園・幼稚園で濃厚接触者の特定を行わないとのことだが、県全体でそういったことをすることはできないか。

(丸山私学振興課長)

そのあたりは、県の対策本部の方で決定することになるが、もしそうなった場合は、どのような感じになるのか。

(出席者)

園児が、マスクをしないで1 m以内ということはザラにあるので、濃厚接触者を追うのであれば、クラス全員が濃厚接触者となるので、あまり意味がないのではと感じている。

(出席者)

教室の中は、スクール形式でマスク着用となっているので、濃厚接触者については、お昼の時など特定の活動のみなので、特定はしやすいと思う。ただ、自分たちで特定するのではなく、やはり外部の方に判断してもらいたい。

(出席者)

コロナに関しては、いろいろな考え方があって現実で、ちょうどいいところを考えるのが大変。

濃厚接触者については、園の対応として、疑わしい人は園に入れないようにしている。春に花粉症と言われても、鼻水が出ていれば断っていた。その辺を厳密にやっていたので、クラスターは発生しなかった。そういったことが、県からの通知に基づき対応していたが、園独自でやっていると思われて、保護者同士で幼稚園は厳しいといわれることもあった。

(山田県民文化部長)

冒頭に申し上げたとおり、県ではこれから次期計画を策定していくところであり、本日の意見も参考にさせていただきたいと考えているので、引き続き協力をお願いしたい。